

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連  (北海道)	◎	*	*	*
	○	商店街（代表者）	来客数の動き	・まん延防止等重点措置が解除されたことで来街者が増え、人の動きが活発になってきた。
	○	一般小売店〔土産〕（経営者）	販売量の動き	・売上は前年比で181.2%、前々年比で168.2%となっている。新型コロナウイルス発生前の2019年と比べると42.1%にとどまっているものの、上向いてきている。
	○	一般小売店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・まん延防止等重点措置が解除された22日以降、売上が急回復している。ただ、3月全体としては前年比50%ほどの売上にとどまっている。
	○	百貨店（売場主任）	来客数の動き	・3月中旬以降、来客数が前年を超えるようになってきている。まん延防止等重点措置が3月21日で解除されたこと、気温が平年を上回る温暖な日が続いていることが客の外出意欲につながっている。売上についてみると、特選や宝飾時計などの高額商材の動きが良い。
	○	百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・新型コロナウイルス新規感染者数の減少に伴って、まん延防止等重点措置が全国的に解除されたことから、来街者、来店者が増加している。
	○	スーパー（店長）	それ以外	・1～3月は新型コロナウイルスオミクロン株の感染拡大に伴って、まん延防止等重点措置が適用されたことで客足が鈍っていたものの、まん延防止等重点措置が解除されたことで徐々に来客数が戻り始めている。
	○	コンビニ（エリア担当）	お客様の様子	・値上げを含めて商材単価が上がっていることで、客が一度に購入する買上点数が増えていることがプラスとなっている。
	○	コンビニ（エリア担当）	お客様の様子	・まん延防止等重点措置が解除されたことで、客に動きが出ている。
	○	衣料品専門店（店長）	販売量の動き	・経済活動再開の兆しを受けて、衣替えや新社会人のスーツ需要が2年ぶりに回復したことが大きな要因となり、景気はやや良くなっている。
	○	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・まん延防止等重点措置が解除されたことで、僅かではあるが来客数が増えつつある。
	○	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・これまで時短営業、休業を余儀なくされていたが、まん延防止等重点措置が解除されたことから、通常営業に戻した。ランチの利用客がやや増えているほか、週末には満席になり、待ちの客がみられるようになるなど、景気はやや良くなっている。
	○	観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・まん延防止等重点措置の解除に伴って、来客数が緩やかな回復基調にある。
	○	旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・まん延防止等重点措置が解除されたことで、街中に少し活気が戻ってきた様子がみられる。また、今後の客の予定などをみても、新型コロナウイルスがある程度終息に向かうことを前提とした話が多くなってきた。
	○	旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・まん延防止等重点措置の解除に伴って、道民割が再開されたこともあり、来客数や問合せ件数が増えてきた。
	○	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・北海道のまん延防止等重点措置が解除されたことで、道内の宿泊及び道外への人流が増加に転じた。ただ、水準としては、新型コロナウイルス発生前の20～30%での推移となっている。
○	タクシー運転手	販売量の動き	・まん延防止等重点措置期間も終了し、売上も少しずつ上向いてきているが、従前の売上には届いていない。人流も感染への警戒感が強いことから、以前のようにするにはしばらく時間が掛かることになる。	
○	通信会社（企画担当）	販売量の動き	・廉価版通信端末の売上が冬に比べて好調で全道で大きく販売量を伸ばしている。ただ、競合他社も同じ通信端末の売上を伸ばしており、量販店や出張販売において客の取り合いになっていることから、引き続き動向を注視している。	

○	観光名所（従業員）	来客数の動き	・3か月前は利用者数が1000人以下だったが、3月は1000人台後半へと回復している。ただ、新型コロナウイルス発生前は冬季において1日平均3000人の来客数があり、それに比べればまだまだ来客数は少ない。
○	その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き	・北海道のまん延防止等重点措置が解除されたことから、徐々にではあるが、輸送量が戻ってきている。
□	商店街（代表者）	単価の動き	・客の様子をみると、新型コロナウイルスとウクライナ情勢のことを気に掛けているようであるが、景気には何も影響が出ていない。
□	商店街（代表者）	来客数の動き	・まん延防止等重点措置が解除されたものの、依然として来街者数の増加を確認できない。水曜日や週末の土日に区域を訪れる客の数は、昼夜共に激減したままである。また、ウクライナ情勢の影響によって物価が徐々に上昇している影響もあり、地域住民の足は遠のいたままである。
□	商店街（代表者）	お客様の様子	・まん延防止等重点措置が3月21日をもって解除される報道が前の週から出ていたことで、19日の3連休から徐々に人通りが増えており、現在もその傾向が続いている。就職や新入学のシーズンであることから、関連業界の売上は増加している。一方、酒類を提供する飲食店は、1次会需要こそ徐々に回復傾向にあるものの、2次会については依然として客が戻っていない。終電までに帰宅する習慣ができあがっていることでタクシーも閑散としている。客に染み付いた習慣を戻すことは容易ではないことがうかがえる。
□	一般小売店〔土産〕（経営者）	来客数の動き	・まん延防止等重点措置が全面的に解除されたこともあって、修学旅行が延期となった学生が春休みを利用して当地を訪れる姿が目立つ。また、卒業旅行のような小グループの旅行客も増えている。ただ、年初の帰省客と現在の旅行者の全体的な数は余り変わっていない。
□	百貨店（マネージャー）	来客数の動き	・まん延防止等重点措置が3月21日まで続いていたこともあり、来客数の前年比の推移は1月が前年比93%、2月が前年比89%、3月が26日現在で前年比93%となっている。景気について、新型コロナウイルス新規感染者数に左右される傾向がみられ、上向きとも下向きともいえない状況にある。
□	スーパー（店長）	来客数の動き	・年末も来客数が伸びていたため、景気は良い意味で変わらない。衣料品は前年並みにとどまるが、携帯電話やインテリア関連など、新生活用品が好調に動いている。
□	スーパー（役員）	お客様の様子	・客の買物の様子を見ると、これまではカップ麺など、巣籠りのためのまとめ買いが多かったが、最近はケチャップ、マヨネーズ、パスタ、ティッシュペーパーなど、値上げ前の商材を生活防衛のためにまとめ買いする傾向に変化している。
□	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・前年と比べて来客数が増加している。2年前と比べても同様の伸びがみられる。ただ、新型コロナウイルスの影響がなかった3年前と比べると、客足が完全に戻ったともいえない状況である。
□	家電量販店（店員）	販売量の動き	・新入学需要などの大きな波はみられなかった。当地の新規感染者数が下がりきらないため、客が警戒している。
□	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・決算期である3月としては販売台数に物足りない面がある。ただ、前月まで好調だったことから、需要を先取りしてしまった影響も考えられる。そのため、全体的な景気は変わらないというのが正直なところである。また、ウクライナ情勢の影響で部品の供給体制にも影響が出始めている。
□	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・メーカーの半導体不足の影響で半年以上前に受注した納期遅れの車両が入庫してくるタイミングによって売上が若干増減している。一方、受注についてはそれほど多くないため、余り変化はみられない。

□	自動車備品販売店（店長）	来客数の動き	・来客数に大きな変化のみられない状態が続いている。
□	その他専門店 [ガソリンスタンド]（経営者）	販売量の動き	・石油製品価格が引き続き高値で推移しており、販売量の厳しい状況が続いている。
□	高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・まん延防止等重点措置が適用されていた3月21日までの売上は例年の4割以下であり、解除後も5割を超えるかどうかであり、景気はやや悪い。当てにしていた歓送迎会などの団体客もごく僅かであった。いかにして例年並みの売上に近づけていくかが、これからの目標となるが、悲しくも材料の値上げについての連絡がたくさん届いている。まともに原価計算すると採算が合わないが、値上げは当然厳しい状況である。
□	スナック（経営者）	来客数の動き	・まん延防止等重点措置が解除されてから、まだそれほど日にちはたっていないが、少しずつ客が戻りつつある。景気はこれから少しずつ良くなるとみられる。
□	タクシー運転手	来客数の動き	・3月上旬は雪の日が多く、タクシーの注文も多かった。しかし、市内の除排雪が遅れていることで、多くの車が雪に埋まるなどしており、輸送効率が悪く、売上増加とはならなかった。中旬以降は道路状況が良くなったこと、まん延防止等重点措置が3月21日で解除されたことから、夜の人出も回復し、タクシー1台当たりの売上は前年比プラス20%ほどとなった。ただ、乗務員不足の影響でタクシーの稼働が前年より20%減ったことから、会社の売上は前年並みとなった。新型コロナウイルス発生前と比較するとマイナス40%と大きな減収が続いている。
□	タクシー運転手	来客数の動き	・まん延防止等重点措置延長の影響で、特に夕方から夜間の来客数が減少したままであり、状況は変わっていない。イベント関係の予約についても、予約後間もないタイミングでキャンセルされる状況が繰り返されている。
□	美容室（経営者）	販売量の動き	・2月の売上は悪かったが、3月は3か月前の水準まで回復している。ただ、良いとはいえない売上が続いている。
□	美容室（経営者）	単価の動き	・3月から価格を値上げしたことで一時的に売上が増えているものの、経費も増えているため、利益的にはさほど変わっていない。
□	住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・分譲マンションのモデルルームへ来訪する客の動きは悪くなく、どちらかといえば活発である。商談に掛かる時間も比較的短く、購入を急いでいるようにみえる。
▲	スーパー（企画担当）	来客数の動き	・まん延防止等重点措置が解除されて以降、来客数が明らかに減少しており、それまでの追い風のあった状態から通常の状態に変わりつつある。
▲	スーパー（企画担当）	販売量の動き	・まん延防止等重点措置が解除されたことで、内食需要が弱くなる傾向がみられる上、価格高騰が1人当たりの買上点数の減少を招いている。必要な物や安い物以外は買い控える傾向がみられる。
▲	スーパー（従業員）	お客様の様子	・原材料価格の高騰から、商材の価格上昇が続いており、消費マインドの低下が懸念される。今後もこの傾向が継続することが見込まれる。
▲	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・決算の数字もみえてきたが、自動車の生産が予定していた台数を達成していない状況から、売上に大きな影響を及ぼしている。また、決算手当の出ない企業が増えていることで、販売量にやや陰りがみえてきている。
▲	その他専門店 [医薬品]（経営者）	来客数の動き	・2020～2021年に掛けて医療業界はバブル期だったのかもしれないと思えるほど、来客数が落ち込んでいる。
▲	その他専門店 [造花]（店長）	それ以外	・業績の悪化までには及んでいないが、物流の停滞や価格の高騰などを要因とした買い控え傾向がみられる。商材を欲しいタイミングで仕入れできないことが営業悪化の一因となっている。

	▲	旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・新型コロナウイルスオミクロン株の感染拡大により、2～3月に掛けて人の動きが抑制され、航空利用者数の伸びもみられない状態が継続していたが、3月下旬にまん延防止等重点措置が解除されたことで、空港においてもビジネス需要や生活需要を中心に少しずつ人の動きが戻ってきた。ようやく回復の端緒に就いたとみられる。
	▲	美容室（経営者）	販売量の動き	・2～3月の売上は前年から10%以上落ち込んでいる。様々な警戒感から、客の来店サイクルが伸び、来客数が減少していることが原因となっている。
	▲	住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・ウクライナ情勢などの影響もあって、客のムードが非常に悪い。円安や原油高の影響でガソリンを始め、様々な商材がコストアップしており、需要に見合わないような値上がりが続いていることから、非常に良くない状況にある。
	×	商店街（代表者）	それ以外	・原材料費が上がり続けている。ウクライナ情勢が早めに解決しなければ、じわじわと影響が出てくることになる。
	×	百貨店（営業販促担当）	お客様の様子	・前年12月は衣料品にも回復の兆しがみえてきていたが、1月末にまん延防止等重点措置が適用されてから、商材の動きは必要に迫られたものだけに限られている。特に婦人服や婦人服飾関連は苦戦傾向にある。
	×	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・新車の需給状況が一向に改善されないなか、地震の影響による工場の稼働停止もあり、年度末であるにもかかわらず売上が大幅に減少している。中古車販売にも影響が生じており、大変な状況となっている。
	×	観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・まん延防止等重点措置など、長期間継続した人流抑制策が生活に根付きつつあり、解除されても客が戻らない。構造的なダメージから抜け出すためには強力な経済対策が必要である。
	×	タクシー運転手	販売量の動き	・数度のまん延防止等重点措置期間の中でも最悪の売上となった。夜間の飲食店への人出は皆無となり、昼間の人出も少ない。消費者の消費マインドは落ち込んでいる。
	×	タクシー運転手	来客数の動き	・北海道のまん延防止等重点措置は3月21日で解除されたが、まだ人の動きがみえてこない。非常に厳しい状況であり、先行きが見通せない状況にある。
企業 動向 関連	◎	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・3月の販売量は前年比プラス1%だったが、3か月前の12月の販売量は前年比マイナス36%だったため、景気は良くなっている。
(北海道)	○	建設業（従業員）	受注量や販売量の動き	・年度末を迎えて、来年度発注予定の案件を前倒しする動きがみられる。各自治体では、新型コロナウイルスの影響で経済が落ち込んだことへの対策として仕事を発注したのかもしれないが、今年度の案件が既に出つくしていることから、予算が付いた来年度の案件を出し始めているようにみえる。ただ、各自治体の予算には限りがあるため、来年度後半に失速することが懸念される。
	○	輸送業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・紙パルプや生乳の荷動きは好調というほどではないが、まずまずである。年度末ということもあり、一般雑貨のトレーラー輸送が見込みよりも伸びている。ただ、今後については、物価上昇に伴う物流の停滞が懸念される。
	○	その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	受注価格や販売価格の動き	・当社主力のレンタル事業は公共工事の下支えがあり、前年比微増で推移している。
	□	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・3か月前と変わらない売上となっている。
	□	家具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・ウクライナ情勢が景気に影を落としている。
	□	建設業（役員）	受注量や販売量の動き	・年度内工事は予定どおりにしゅん工を迎えている。工期短縮と追加工事による上積みもあり、3月末決算では見込みどおりに計画を上回る利益を確保できた。
	□	輸送業（支店長）	取引先の様子	・ウクライナ情勢に伴う影響が、まだ関係先にまで波及していないこともあり、大きな変化はみられない。

	□	司法書士	受注量や販売量の動き	・住宅購入などの個人の借入れは若干だが増えている。ただ、金融機関から企業への融資が少なく、全体的な受注量に大きな変化はみられない。企業の設備投資への融資が行わなければ、景気は現状維持にとどまる。
	□	その他非製造業 [鋼材卸売] (従業員)	受注量や販売量の動き	・ベース商材の動きが非常に悪いなか、4月からの値上げの影響などもあり、一部の商材ではメーカー側の欠品がみられている。欲しい商材がすぐに入手できないこともあり、売上への影響が出ている。
	▲	金属製品製造業 (従業員)	受注価格や販売価格の動き	・ロシアによるウクライナ侵攻が始まってから様々な影響が出ている。ステンレスが高騰し入手困難な状況となっているほか、半導体不足はいつ解決するか見通しが立たない状況となっている。また、1月の住宅着工棟数は前年比80%と大幅な落ち込みとなっている。
	▲	金融業(従業員)	取引先の様子	・まん延防止等重点措置やエネルギー価格を中心とした消費者物価の上昇が、個人消費の重しとなっている。このため、道内景気はコロナ禍からの持ち直しの兆しのあった3か月前と比べると、やや悪くなっている。
	▲	司法書士	それ以外	・新型コロナウイルスの第6波も山を越え、まん延防止等重点措置も全国的に解除され、旅行や会合なども動き始めているが、依然として新規感染者数が高止まりしているなど、注意の必要な状況にあることから、景気が回復するほどの勢いがみられない。また、諸物価の上昇が止まらないことから、生活にゆとりがみえない。
	▲	その他サービス業 [建設機械リース] (支店長)	取引先の様子	・新型コロナウイルスの影響、ウクライナ情勢、円安、原料の価格高騰など、後ろ向きの要因が多いことから、景気はやや悪い。
	×	*	*	*
雇用 関連 (北海道)	◎	—	—	—
	○	人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	・ウクライナ情勢の影響による原料高、仕入価格の上昇が見込まれるものの、今のところ、求人意欲は旺盛で、3月までの累計求人数は前年から4割の増加となっている。新型コロナウイルスの終息を見込んで転職を検討する人材が多くなっていることから、その欠員を埋めるための需要もみられ、全体的に企業の求人意欲は底堅く推移している。
	○	求人情報誌製作 会社(編集者)	求人数の動き	・まん延防止等重点措置の影響を強く受けていた飲食業やホテルなどの観光産業を除けば、多くの業種で雇用形態を問わず求人ニーズが発生している。
	○	求人情報誌製作 会社(編集者)	周辺企業の様子	・求人申込件数は前年の1.2倍程度と回復傾向にある。ただし、求職者数の応募意欲はむしろ低下しているようにみえる。
	○	職業安定所(職員)	求人数の動き	・当地における2月の有効求人倍率は0.88倍であり、3か月前との比較では0.03ポイント下回った。
	○	学校[大学] (就職担当)	求人数の動き	・企業の新卒採用活動が前年より活発で、それに伴って学生の動きも良くなっている。新卒採用活動は企業の事業展開計画に沿ったものとなることから、景気は上向いている。
	□	求人情報誌製作 会社(編集者)	求人数の動き	・まん延防止等重点措置が解除されたこともあって、企業の人材獲得意欲は旺盛である。ただし、新型コロナウイルス新規感染者数が思ったほど減っていないことから、いまだ様子見の企業も多くみられる。
	□	求人情報誌製作 会社(編集者)	求人数の動き	・まん延防止等重点措置の期間が延長されたことで3月上旬は様子見ムードがみられたが、徐々に新型コロナウイルスの影響が緩和されてきている。すすきの飲食店やスナックからの求人募集がやや増え始めた。企業においても、ここに来て正社員求人が順調に伸びている。
	□	職業安定所(職員)	求職者数の動き	・有効求職者数の高止まりがしばらく続いている。なかなか就職に踏み切れない人材がみられる一方で、企業においても人手不足分野を除けば、それほど積極的に採用を行っておらず、閉塞感が漂っている。

	▲	職業安定所（職員）	求職者数の動き	・ 2月の新規求職者数が前年から10.9%減少している。求職者数は依然として新型コロナウイルスの感染状況をみながら求職活動の開始時期を見計らっている。
	×	—	—	—